



目次 ◎ 月例会報告	『武庫離宮100年と別荘文化』	
	NPO法人須磨歴史倶楽部 理事長 小林善彦氏	・・・1～2、7頁
◎ 会員寄稿	『岡工務店小史』	
	(株)岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏(当会：理事)	・・・3～4頁
◎ 事務局リポート	『六条八幡宮 流鏑馬神事』	・・・4～5頁
◎ お知らせ		・・・5～6頁
◎ 広報コーナー	神戸三宮東急REIホテル	・・・8頁

第442回月例会報告（講演概要）

テーマ：『武庫離宮100年と別荘文化』

講師：NPO法人 須磨歴史倶楽部 理事長 小林 善彦氏

日時：平成27年10月15日（木）12時～14時

会場：西村屋 和味旬彩

はじめに

私が須磨歴史倶楽部に関わったのは、西本願寺大谷光瑞のチベット探検隊が、インドやチベットから仏典、仏具を持帰り、その研究施設として現須磨離宮公園に「月見山別邸」を設け、これが大正3年に「武庫離宮」となったことを知り、興味を持ったことに起因する。

武庫離宮の造営

武庫離宮は、大正3年12月には概ね竣工したことから、昨年、武庫離宮100年のイベントを神戸市とともに行った。

この離宮のルーツは、現神戸ハーバーランド、旧三菱倉庫高浜岸壁にあった「神戸御用邸」に始まる。「明治天皇御用邸跡」の碑が設置されているが、ここを宮内庁が明治19年に借上げ、神戸の離宮がスタートする。



明治天皇御用邸址碑

神戸御用邸は、明治25年の大津事件により表舞台に出てくる。津田三蔵という滋賀県警の巡査が、ロシアのニコライ二世を切りつけた事件である。ロシアは大国であり、国難を恐れた政府は、有栖川宮と明治天皇による謝罪を要請し、神戸の御用邸から向かわれたことで、歴史の舞台となった。

明治期は、海上輸送が中心で神戸は賑いを見せ

ており、西南の役では九州への物資移送等物流の拠点であった。宮内庁も御用邸の必要性から、専崎彌五平の私邸を借上げたが、間取り、使用部材等御用邸の基準に満たないことから、同地に離宮を建設することとした。しかし、周辺は商業港として発展しており、天皇の離宮造営地には相応しくなく中止となる。

明治26年、有栖川宮が舞子に別荘を設けた。有栖川宮は、ある意味天皇の教育係であり、皇族は、神戸御用邸より有栖川宮の別荘を宿泊に利用した。天皇も同様であったが、天皇が他所の邸にお泊りになることは好ましくないことから、明治40年しかるべき場所として、西本願寺月見山別邸（現須磨離宮）及び近隣民有地を購入し、明治44年に建築着手し、大正3年に完成する。その後、昭和20年の空襲による焼失まで大正・昭和天皇のご宿泊所として利用された。



須磨離宮の正門。旧武庫離宮の姿を残している。

7頁に武庫離宮と現須磨離宮の施設配置比較の図を掲載。

もう一つの離宮

明治30年に、明石城が離宮の候補に上がった。32年に明石の水害で町民が困った折、宮内庁が

ら320円の見舞金が出た。これは、離宮建設の布石と見る。

当時、日本政府は「日本大博覧会」の開催誘致をアメリカの支持を得て、諸外国に働きかけていた。明治40年代まで計画を有していたところ、西園寺内閣の時に、財政事情もあり中止を打出すが、アメリカからの資金支援の申出もあり、明治天皇の在位50年を記念し、博覧会開催の計画を進めた。その博覧会における外国賓客の宿泊施設として明石に離宮が計画されたものである。44年に福羽逸人が建設担当に任じられるが、45年に天皇陛下が崩御されたため、全て中止となった。

加古川のニッケ工場は、この時に明石から移転したものである。

須磨の別荘文化

須磨には多くの別荘が建設されていた。この理由は、古来より風光明媚な交通の要衝で、歴史に彩られた地であったことからである。

(明治～大正期の別荘地を7頁に掲載)

○ 西本願寺大谷光瑞が、インド、チベットの研究施設として須磨に別邸を持ったのは、父上の胸の病の関係で、現在の須磨国民宿舎の西側に別荘を有していたが、そこでは手狭なことから、後に武庫離宮となる一画を買収し別荘を建設した。

その別荘の場所は現在の須磨離宮公園内の潮見台のあたりになる。

○ 須磨浦公園の敦盛塚の隣に賀陽宮の別邸があった。須磨での宮家の別荘は賀陽宮のみで、(垂水区には有栖川宮別荘がある)賀陽宮が姫路の師団長をしていた時の官舎が、淳心学園に残っている。

○ 別荘ではないが、須磨浦公園に須磨浦療病院がある。(現・須磨浦病院)明治22年にサナトリウムとして開院した。この開設者鶴崎平三郎は、生涯を結核医療に捧げた。

ここには正岡子規も療養にきており、明治28年10月再度この病院に寄り、その後奈良から東京へと行くが、35歳の若さで亡くなる。その時、奈良で詠んだ歌が「柿食えば…」の句である。

○ JR須磨駅から山側に茶色の建物があり、それが藤田伝三郎率いる藤田組の邸の跡である。

○ 現須磨離宮公園近辺には、神戸銀行の岡崎邸、鈴木商店の鈴木よね邸、小曽根邸、西尾邸や、村野、滝川等の学園関係の邸も見える。



住友家須磨別邸全景模型

○ 海沿いにも邸宅がそろっている。その中で、今年生誕150年となる野口孫一設計に係る住友友

純第15代当主の別邸があった。住友家の美術館

とも言われた別荘だった。ここがある意味須磨別荘文化の始まりである。20年の6月に空襲で全て焼失し、黒く焼けた門とマイビーチの石垣だけ残っている。正に神戸、関西の経済界の重鎮が集うまちであった。

○ その他、垂水区には、有栖川宮の舞子ヴィラのあった。昭和29年には天皇陛下も御成りもあったが、残念ながら、建替えによりコンクリートのホテル



有栖川宮別邸 舞子ヴィラ

の HOTEL となってしまった。

語り継ぎたい須磨と関わり的人物

その他、須磨に関わる忘れてはならない、語り継ぎたい人物を紹介したい。

○ 須磨・禅昌寺には地震学者関谷清景が眠る。大垣藩の出で、努力の末、藩を代表し東京大学(前身)に入り、明治9年にイギリスへ国際留学生として機械工学の勉強に行く。留学半年で結核を病み、須磨に療養に来た。彼に手を差し伸べたのが、地震学会の初代の責任者・服部一三。大正時代、第13代兵庫県知事となった人物である。

関谷清景は、地震震度を微、弱、強、烈と表し、岐阜県、濃尾一帯に地震計を設置してデータを取り、濃尾地震では発生を予知した。現地での調査中に倒れ、神戸に再度戻り、禅昌寺で明治29年1月8日42歳の若さで亡くなった。

地震学会の基礎を作った人だが誰もそのことを知らない。

○ 沖縄県最後の知事島田勲は、西須磨小学校出身だが、地元では知らない人が多い。沖縄では島守りとして語り継がれている。

○ 大橋翠石も大正元年から終戦前まで武庫離宮前に住まわれていた。この方は虎の毛1本々書け「毛描きの翠石」と言われる。

おわりに

須磨には数多くの別荘、別邸があったと言われても、戦災や大震災の後、全て無くなってしまった。このため、私達は少しでも須磨というまちがこれ程立派なまちであったことを知ってもらうため、「見物に来る人は中央区へ」、「見学に来る人は須磨区へ」と、そのような挨拶をして、須磨をアピールしている。それ程、須磨というところは歴史がいっぱいあり、また、皆さんもそのようなイメージで須磨を歩いていただきたいと思います。史跡等の案内については是非ご要請を賜りたい。

昭和21年4月に岡 実によって創業、同23年8月に設立された弊社はまさに兵庫県建築会の創設と時期を同じくして、神戸の建設業界に仲間入りした。

現在、4代目代表者・岡 栄治が兵庫県建設業協会神戸支部長をつとめる傍ら、59名を率いて神戸市内を中心とした官民の共同住宅の新築工事の受注・施工業務に勤しんでいる。

小生が3代目代表者・岡 繁男のもとに生まれたのは昭和43年4月6日。神戸っ子ならご存知か、奇しくも「神戸高速鉄道」開業の前日。文字通り鉄道や道路も含めて神戸のインフラが生まれ変わる激変の時期であった。

余談ながら東京霞ヶ関ビルも43年4月の生まれである。

小生は世に言う「バブル世代」に括られるが、自身、若干それを「前時代の残り香」的に感じたことは社会に出てからあったが、恩恵を受けたというほどではない。

大量生産・大量廃棄が美德とされた時代の生まれらしく、中学は12クラス、高校は9クラスと同期生の数だけは多く、受験の時期になれば過当競争。それでも直後の「団塊ジュニア」さらに「就職氷河期」世代からは悲しいかな「根性なし」と思われているような世代である。

閑話休題。自らの経験で言えば、建設業界における人手不足を2度にわたり経験した。

一度目は平成7年の阪神大震災後の人手不足だが、あの時期の弊社は110名・請負高120億というような体制であった。売上構成も多種多様であったが、一時的に「ないないづくし」のあの頃はまず震災による解体工事と採算度外視の仮設住宅の対応が最優先され、工事途中で震災を迎えて発注者の方々にご迷惑をかける一方、復興住宅新築受注が相次ぎ、これまでにない人手不足の様相を呈した。また、それを理由に後ろ髪をひかれる思いで請負うことはもとより見積すら対応できないような新規案件もしばしばあった。

そして平成27年現在の今が二度目である。大震災から20年において、弊社は建設業界の潮流に沿う形で請負50億体制へとスリム化した。

当然人数も半分を堅持してきた。

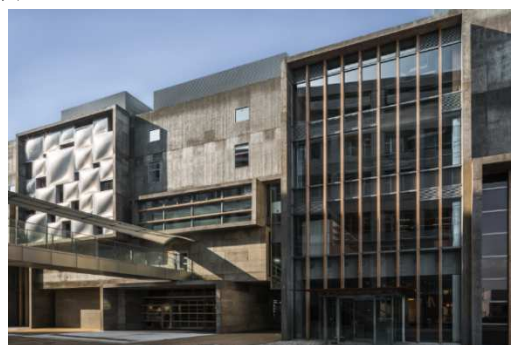
その背景には、今にして思えば「痛恨の至り」だが、わが社にとっても「失われた10年」がありその間、定期的新卒採用を全くしなかったことである。ようやく4年前になってそれが復活するのであるが、現在30歳前後の戦力（技術者）が決定的に不足していることが如実に現れている。

ベテランに頼りすぎて「建設業の長い冬の時代」を乗り切ったがために、管理職以上は殆ど高齢化。現場所長の層は必要十分に厚い。ところが次席層が手薄。その下の裾野が広がっているというワイングラス型の人口分布である。「どこも同じですよ」と仰られそうだが、受注が活況になってきた昨今の状況下において、このような人員構成（現場配属）に苦慮しながらもこれまでにない総動員状態で、現場の運営につとめている。人手不足のあまり施工図も外注しなければならないような環境下なれど、次世代技術者の育成は避けて通れぬ課題のひとつである。得意分野を守っていく中で、新しい分野における実績を作っていくにしても、施工と営業、守りと攻めが一体となった計画的受注がこれからの勝敗を握る鍵となろう。

兵庫県建築会の企画らしく「旬」のテーマを採り上げているとみえて、奇しくも直前の月例回テーマが「人あまりから人不足社会への転換と人材育成の課題」と、まるで弊社のことをご心配いただいておりますのかと思える講話だった。当たり前のことだが、新卒採用もとより中途採用においても説明会の机上の話だけでは採用側の伝えたいことの一割も伝わらないので、弊社では「現場見学会」という名で、弊社の現場運営が本当に当人に適しているか見極めてもらう（逆もだが）ことが採用の基本形となっている。

もともとは「官庁工事育ち」の弊社であるが、兵庫県発注としては比較的最近のものに姫路の「ものづくり大学校体験館」がある。預かってきた平面図を見ても立面の予想が全くつかないようなその難度（弊社作品でないが「淀鋼迎賓館」に相当する・・・と自負しております）は、平成における弊社のメモリアル物件として今後も歴史上語り継がれていくだろう。又この工事を竣工した後での反省から、決裁（経営）者は値決めにおける決済だけでなく、応札に取組むのか否かを事前に決

断しなければならないということを学び、今後の教訓とされた。以後も、その戒めを忠実に守っている。(この画像は竣工時のものづくり大学校体験館)



智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。
とかく人の世は住みにくい。

ご存知「草枕」の抜粋であるが、平素小生が思うことである。小人の戯れ言や嘆きはさておき、このような稚拙な文章であるにも関わらず、会報への寄稿への機会をくださった兵庫県建築会に心よりの感謝と、会の益々の発展を祈念申し上げます。

事務局 見学レポート

六條八幡宮 流鏝馬神事

平成27年10月10日

神戸市北区山田町中

10月月例会の小林善彦講師から神戸市北区の歴史的な佇まいを紹介いただき、10月の3連休の1日を六條八幡宮『流鏝馬神事』等を見学に行ってきました。著名な流鏝馬は、葵祭で催される下賀茂神社など全国で数ありますが、県内ではここだけに残されており、神戸市の無形民俗文化財に指定されています。

駐車場が期待できないので、神鉄箕谷駅からはバスが出ていますが、3km程なので歩いて行くことにしました。国道428号大滝口から近畿自然歩道に入り、水路のカワニナの大群に夏のホタルの群舞を想像したり、柿の実を物欲しそうに触ったりしながら、芋ほりグループの後ろについてのおんぴりと秋の田園風景を楽しんでの散策です。

八幡宮の手前に、右へ無動寺とあり、流鏝馬開始までに時間があるので、先に



拝観することとしました。

参道沿いの石仏群に迎えられて無動寺の本堂へ。創建は聖徳太子と伝えられる古刹ですが、1752年に復興されたもので、近年に改修されているようです。ここに祀られている「仏像五軀」はいずれも平安末期のもので国の重要文化財に指定されています。後で分かったのですが、申し出すれば有料(300円)で拝観ができたようで、下の「無動寺仏像」を見ると本尊の大日如来坐像は3mに及ぶ迫力です。近く再度拝観する予定です。

境内の西側階段を登ると、室町初期の1408年建立の『若王子神社』(じゃくおうじ)が鎮座します。三間社流造の建築様式というので、無動寺(旧 福寺)の鎮守社として建てられたとあります。これも国指定の重要文化財です。社殿は全体を覆う屋根で保護されており歴史を感じさせられます。



無動寺への旧参道



無動寺本堂



若王子神社



無動寺仏像の画像はこちらから↓

<http://www.mudoji.sakura.ne.jp/butuzou.html>

六條八幡宮は、平安中期の創建と伝えられ、本殿は1688年の再建、御祭神は応神天皇です。

丹生山田の総鎮守社で、流鏝馬神事は、毎年山田の各地域が持ち回りで行われています。

神社では珍しい三重塔は1466年建立され、神仏一体の名残りで、県内でも3か所しか残っていない神社内の塔です。大正3年に重要文化財指定されています。



六條八幡宮





三重塔

流鏝馬は、「元来は年占の神事で、今は神社の儀式として残っている」(世界宗教用語大辞典)とのことです。神殿での神事に続き、稚児に曳かれて朱の馬具に装飾された主役が登場。鳥居前で試射し、およそ50mの参道を一挙に駆け抜け、的を見事に撃ち抜きました。3回目のサービスもあり、和やかなうちに神事が執り行われました。

歓声に紛れ至近距離を擲擧する声もありましたが、両手を手綱から離して弓を射るには、やはり相応の鍛錬が必要で、年占神事とはいえ、馬術、弓術が基礎にあり、武道としての側面を有していることには違いないでしょう。

流鏝馬神事は、毎年10月の第2日曜日に催されます。興味のある方は来年訪れてみてください。これからもまだ秋の実りや古刹巡りも楽しめます。また、帰りには箕谷の「銀河の湯」の入浴も一考でしょう。



お知らせ

◎ 表彰

平成27年10月29日兵庫県公館において、次のとおり会員企業、職員に表彰、授賞が行われました。日頃の研鑽の賜と存じます。誠にありがとうございます。

○ 平成27年度兵庫県優秀施工者賞

兵庫県建築会推薦

濱野 峰行様 丸正建設(株)

藤井 栄 様 (株)大木工務店

他団体推薦

奥井 智之様 淡路土建(株)

窪田 智 様 今津建設(株)

橋本 輝久様 前川建設(株)

吉田 茂 様 (株)新井組

和田 幸夫様 (株)新井組

○ 平成27年度さわか県土づくり賞

他団体推薦

(株)新井組

受賞工事名 (二)洗戎川水系洗戎川排水機設置工事(土木工)その1

熊谷・明和・丸正特別共同企業体

会員企業 (株)明和工務店

丸正建設(株)

受賞工事名 県立尼崎・塚口統合新病院

第1期建築工事

三機・日設・三神特別共同企業体

会員企業 三神工業(株)

受賞工事名 県立尼崎・塚口統合新病院

第1期空気調和設備工事

◎ 研修交流会開催結果



会 場：六甲国際ゴルフ倶楽部

開催日：平成27年10月22日(木)

成 績：

優 勝 平井 保夫氏

準優勝 瀬戸本 淳氏

三 位 増田 繁治氏

(成績はダブルペリア方式による。)



優勝の平井氏

少し肌寒さを感じる天候でしたが、半袖で頑張っておられる方も。優勝の平井氏は、ようやく実力にダブルペリアによるハンデが伴いました。会長、増田氏も同様でした。皆様には、次回新たな頑張りを期待します。

◎ 行事ご案内

① 見学研修会（平成27年度第2回）

『稲田藩の足跡と淡路秋の味覚』

日 時：11月26日（木）8：40 出発

見学先：①旧益習館庭園（洲本市）

②金天閣外（洲本市）

② 役員会・事業推進委員会

日 時：平成27年12月10日（木）

15：00～17：00

会 場：① 兵庫県民会館 7階 らん

② 紅宝石（17：30～）

議 題：平成28年度事業計画及び70周年記念事業について

③ 新春会員交流会（兼第444回月例会）

日 時：平成28年1月14日（木）

17：30～19：30

会 場：神戸三宮東急REIホテル

**間もなくご案内しますので、ご予約よろしく
お願いします。**

④ 第445回月例会

テーマ：（仮題）夢と浪漫をいだいて
～スペイン巡礼の旅～

講 師：石田邦夫副会長

日 時：平成28年2月18日（木）

12：00～14：00

会 場：西村屋和味旬彩

⑤ 第446回月例会

テーマ：異文化コミュニケーション

講 師：黒田高之氏

（株）リンク グローバルソリューション
シニアコンサルタント

日 時：平成28年3月10日（木）

12：00～14：00

会 場：神戸三宮東急REIホテル

◎ 事務局便り

○月例会講演余話

淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に

いく夜寝覚ぬ 須磨の関守

子供の頃、百人一首で札の場所をまず確認しておく。理由は、淡路という地元名が入り馴染みやすかったからでした。山陽電車須磨駅の北側には今も関守町の地名が残り、関守稲荷神社が祭られています。須磨は、「古来より白砂青松の景

勝地であり、山陽道が通り、摂津の国の西端として播磨との交通、軍事の要衝の地であったことから関所が置かれていた」とあります。ここから北へ向かうと須磨寺があり、更に坂道を辿ると須磨離宮公園に至ります。

その坂道にはしっかりした石積みの擁壁に巡らされた施設が並んでいますが、この度の講演で初めて誰の邸跡であったか知ることができました。また、須磨国民宿舎の前身の住友家の模型を見るにつけ、そのスケールには驚かされます。



離宮から須磨寺への道路沿いの石積み擁壁

講師の言われた「見物は中央区」「見学は須磨区」は、観光地としての異人館街との違いを指しているのと思います。今回の月例会では、武庫離宮を中心として、須磨の地に展開された華麗な別荘文化、神戸財界人の豪壮な邸を知ることができました。



旧西尾邸
（現レストラン）

その他、須磨に関わった人々や施設について初めて知る興味深いお話が盛りだくさんにありましたが、スペースの関係上省略せざるを得なかったのが残念です。出席できなかった方で、講演を聴いてみたいという方には、当日のDVDお貸しできますのでお申し出ください。

○ 秋たけなわの11月となりました。一方で、ボチボチと来年の準備、今年の整理にと追われる時期がやってきました。家内からは、暖かいうちに計画よく家の掃除をするように指令が飛んできました。その気はあっても、いい気候にいいお天気となれば、なにかもったいない気分です、つい「あれ見に行こうか」となり、叱責を受けることになります。

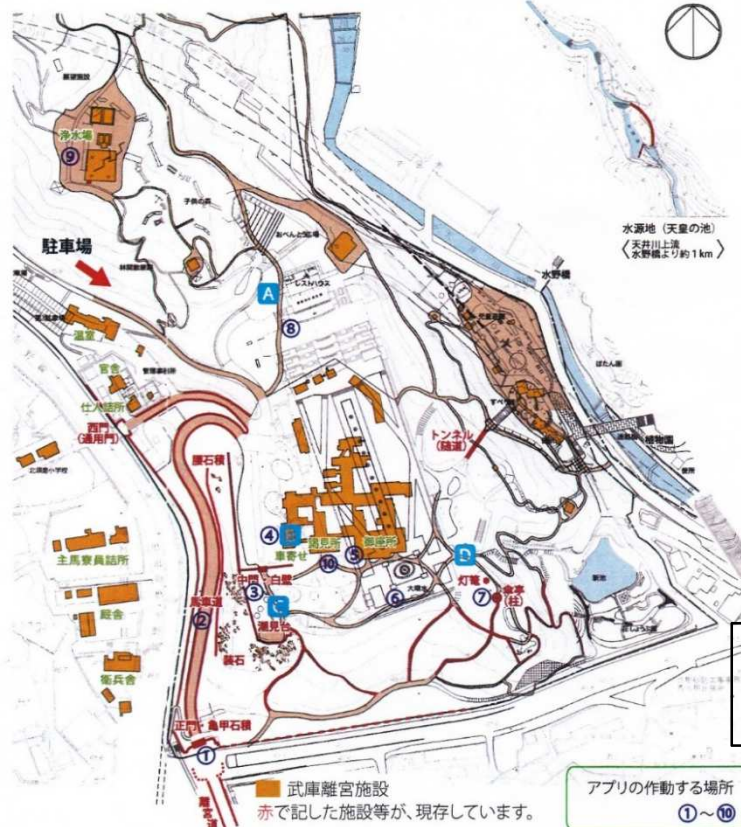
事務局では、不用品、書類の整理は、概ね了ですが、来年度は、70周年を迎えることから、その計画づくりが重要事項です。これから役員会を通して事業計画を策定していきたいと思っていますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いします。

事務局：谷 純夫、石井滝実子
電 話：078-996-2851
FAX：078-996-2852
Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp

1 武庫離宮と現須磨離宮の施設配置比較

主要な建物は昭和20年神戸空襲で焼失しましたが、石組や植栽・燈籠・展望台（潮見台）などの庭園構成要素はかなりの部分が現存しています。

A レストハウス西側 B 中門広場「古の武庫離宮」テント C 潮見台 D 月見台
に分かれて、NPO法人須磨倶楽部会員による案内を行っております。



須磨離宮公園発行の武庫離宮造営100年パンフレットより

2 明治～大正期の須磨の別荘地



NPO法人須磨歴史倶楽部発行の近代人物伝より

◆明治末から大正期にかけての須磨の別荘地

◎鴻山俊雄「思い出の記・須磨回想(1)」『日華月報』第229号
(野田清之、鴻山俊雄作図) 昭和60年 関西大学図書館蔵

TOKYU REI HOTEL Party Plan

忘・新年会 Plan

2015 12.1 - 2016 2.29

一年の締めくくりと新年のはじまりにふさわしい
神戸三宮東急REIホテル自慢のプランをご用意しました。

スタンダード
プラン

お一人様

5,000 yen

ベーシック
プラン

お一人様

6,000 yen

セレクト
プラン

お一人様

7,000 yen

お得な特典!

50名様以上のご利用で——

● 乾杯用スパークリングワイン
サービス

● 150分フリードリンク

● ピンゴゲーム付きカラオケ
無料貸し出し(1日限定1台)

飲み放題 (2時間)

1,500 yen

- ビール ● ウイスキー
- ワイン(赤・白)
- 焼酎 ● 日本酒
- オレンジジュース
- ウーロン茶



※写真はイメージです

※ 表示価格にはサービス料と消費税が含まれております
※ 食材の入荷状況によりメニュー内容が変更することがございます



(旧 神戸東急イン)
神戸三宮 東急REIホテル

〒651-0096 兵庫県神戸市中央区雲井通6丁目1番5号

Tel: 078-291-0109 Fax: 078-221-2917

<http://www.kobesannomiya.rei.tokyuhotels.co.jp/ja/>

3階 宴会場

ご予約お問い合わせ

078-291-0701

受付時間
9:00~18:00まで



*表示価格にはサービス料と消費税が含まれております
*食材の入荷状況によりメニュー内容が変更することが
ございます

〒651-0096 兵庫県神戸市中央区雲井通6丁目1番5号
Tel: 078-291-0109 Fax: 078-221-2917
<http://www.kobesannomiya.rei.tokyuhotels.co.jp/ja/>